

シラバス（学習内容、年間指導計画および評価規準・評価基準）

2019年度 科目名（ 数学B ）

1 対象生徒、単位数、使用教科書

対象生徒：数学Bを履修した生徒。選択科目として開講

単位数：2単位

使用教科書：数研出版 新高校の数学B

2 科目の目標

ベクトルや数列，確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

3 評価規準（何を評価するか）

有向線分とベクトルについて理解する。ベクトルの加法・減法・実数倍について理解する。ベクトルの成分について理解し，ベクトルの演算ができる。ベクトルの内積，ベクトルのなす角，内積の性質を理解する。

位置ベクトル，ベクトルと図形について理解を深める。

空間の座標，空間ベクトルについて理解する。空間ベクトルの成分，空間ベクトルの内積を求めることができる。

等差数列について理解を深め，等差数列の和を求めることができる。等比数列について理解を深め，等比数列の和を求めることができる。和の記号 Σ の定義を理解し， Σ で表された演算ができる。

階差数列について理解を深める。

漸化式と一般項について理解を深める。数学的帰納法の考え方を理解する。

4 レポートによる評価基準（どんな方法で評価するか）

レポートの理解度に応じて評価する。評価は40～54点を2、55～69点を3、70～84点を4、85点以上を5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とし、再提出により合格した場合の評価は2とする。

5 試験範囲と試験による評価基準

第1回試験（7月試験）の試験範囲は第1回レポートから第3回レポート（R1～R3）の学習範囲とし、第2回試験（1月試験）の試験範囲は第4回レポートから第6回レポート（R4～R6）の学習範囲とする。

試験内容は、評価の観点（関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な技能、知識・理解）を反映させた内容とする。基本的な部分から約50%、標準的な部分から約40%、発展的な部分から約10%を出題し、評価は30～40点を2、41～59点を3、60～79点を4、80点以上を5とする。なお、30点未満については再試験とする。再試験問題は30点以上を合格とし評価を2とする。

再試験を繰り返してもなお基準点(30点)に達しない場合は1とする。（単位認定しない）

6 スクーリングの目標・内容・計画

科目選択時の注意事項として、スクーリングに積極的に出席することと明記しており、スクーリングに取り組む姿勢を、学年末評価の参考資料として考慮する。スクーリングはレポートに沿った授業と、質問に個別に対応することを基本とする。

R	項目	内容	教科書	時期
1	第1章 ベクトル 平面上のベクトル	有向線分とベクトルについて理解する。ベクトルの加法・減法・実数倍について理解する。ベクトルの成分について理解し，ベクトルの演算ができる。ベクトルの内積，ベクトルのなす角，内積の性質を理解する。	p. 8～21	5月 月上旬
2	平面上のベクトル	位置ベクトル，ベクトルと図形について理解を深める。	p. 22～36	5月 月下旬
3	空間のベクトル	空間の座標，空間ベクトルについて理解する。空間ベクトルの成分，空間ベクトルの内積を求めることができる。	p. 37～48	6月 月中旬
4	第2章 数列 数列とその和	等差数列について理解を深め，等差数列の和を求めることができる。等比数列について理解を深め，等比数列の和を求めることができる。	p. 50～63	9月 月下旬
5	数列とその和	和の記号 Σ の定義を理解し， Σ で表された演算ができる。階差数列について理解を深める。	P. 64～73	10月 月下旬
6	漸化式と数学的帰納法	漸化式と一般項について理解を深める。数学的帰納法の考え方を理解する。	p. 74～80	11月 月中旬